

発行人 藤井 信吾

◆発行 取手新時代をひらく会
◆発行責任者 池田 徳光

◆URL <http://www.fujii-shingo.com> E-mail: hirakukaishingo@ybb.ne.jp
◆事務所 〒302-0004 取手市取手2-14-24 竹内ビル2階 TEL&FAX:0297-72-5616



新成人へのメッセージを贈る藤井市長

この1月には、大学生また20歳の若者に直接メッセージを伝える機会がありました。ふだん市政の取り組みに関してお話しをする時の対象層は50代以上の方が多く、今回は何をどのようにお伝えすれば良いか、それなりに工夫をして臨みました。

大学生へ「エッジタウン生き残りのために」

その一つは、早稲田大学グローバルエデュケーションセンターからのご依頼で、「地域連携と地域競争力」と題した学部、学年を問わず聴講できる講座で90分の講義を行ったことです。学生時代に早稲田大キャンパスには一度足を踏み入

大学生や新成人へのメッセージ

早稲田大学講演・新成人への祝辞より

取手市長 藤井 信吾



取手ウェルネスプラザ大屋根広場に集う新成人

れたことがあります。40年ぶりに訪れる機会を得て校舎が一新されていることに驚きました。

講義の標題は「エッジタウンの生き残りのために」としました。取手市のように東京圏の郊外型ベッドタウンとして発展してきた都市がどのような課題に直面しているか、ここ数年、どのような手立てを講じて次の時代を拓こうとしているか、を主たるストーリーとして組み立てました。と同時に、大学生にとって今後の職業イメージを描くうえで多少でもお役に立てるようにとの思いから、副題を「人生いきいき地方という活躍の舞台」と掲げ、私自身がどうして地方政治の場に転ずることになったかについて、さらに遡って自分の生い立ちのなかで小学校から高校までの地域活動や学校活動を通して自然に身に着けた精神的な感化の過程といったものも取り入れて、正直にお話をさせていたところですが、80名ほどの受講者は、政治学や行政学や法学等を履修していない他分野を専門とする学生だったようですが、まじめな受講態度でしっかりと聞いてくれました。

もっとも、「将来、区役所や市役所といったところで働いてみたいという気持ちの方がいますか」との問いには、全く

手が上がりませんでしたので何とも本当のところはわかりかねます。都道府県、市町村での公務サービスの本当の意義については、学校の課程を経て就職、結婚、子育てといったライフサイクルを重ねていく中で、生計を立てるといった意味での私(わたくし)経済よりもいくらか大きな舞台としての家族を含めた生活の場の重要性に気が付けばこそ見えてくるという性格を持っていると思います。今回受講された学生さん達がいずれ何かの折に気付くきっかけとなれば良いのかも知れません。

「邁進」を掲げる新成人へ

さて、もう一つは、成人式です。現在、取手市民会館が改修工事中のため今年はウェルネスプラザを会場として出身中学ごとに3回に分けた運営となりました。成人式は、新成人の中から30人ほどの実行委員を選定して成人式の記念冊子を作るとともにその年のテーマを決めて式典の運営に当たります。今年の成人式のテーマは「邁進」でした。

今年は近隣の市において不幸にも荒れた成人式という報道がなされたところもありましたが、成人式についてはこの日を心待ちにしている新成人を祝福すると同時に今後の道のりを主体的に力強く歩み出せるように後押しをしてあげる大事な節目だと私は思っています。

私は、新成人には、人は生まれる時代を選ぶことはできない、両親を選ぶこともできない、他人のせいにはせずに自分の人生は自分で拓くということを原点として、これからの人生にしっかりと向き合っていくというお話を必ずしています。とはいえ、年齢に応じた物事の捉え方もあり、今の若者は倫理的、箴言的な物言いは、慣れていないようだと実感していますので、会場の雰囲気を見て、多少最近の流行の要素を取り入れて、平明に伝えることとしています。今回の成人式では、女優の綾瀬はるかさんのことを援用させていただきました。お正月のNHKのテレビ(1月4日おはよう日本)をたまたま見て知ったことですが、綾瀬はるかさんは、今年の抱負として1枚目の色紙には3行、「楽しく、楽しく、楽しく」と書き、もう1枚には、「まああるい心」と書いていました。そのままご紹介して、相応にきびしいであろう女優業で一番の売れっ子として神経を使う仕事をしっかりとこなす上での自省と私は受け止めていますとだけコメントしましたが、この話も静かにしっかりと聞いてくれました。

これから社会人となる若者に何を伝えるべきか、本当に難しいテーマです。学校の先生と同じことを言ったのでは、市長あいさつの意味はないと思います。また、伝わらない美辞麗句では会場がすぐ浮き立ってしまうのも現実です。あらゆることに對して自分が本気で関わっているか、自分の言動に鮮度が保たれているか常に問われているか、思いながら、若者に接していくことが大切であると考えております。

元気で楽しい市民活動の紹介

続編

「日本一寝たきり老人の少ない町」を目指す「16創年の会」の活動

会長 永島 豪郎

旧藤代町では現役を退職した男性を対象に、地域における仲間作りを目的とした男性学講座を開講してまいりました。私達は平成16年の講座を受講後、翌年4月、有志により当会を立ち上げました。現在会員数25名（男性20名・女性5名）平均年齢は71歳です。

会の名称は「16」年に講座を修了した仲間が「創年」としての生き方に共感したことに由来します。創年とは地域のために自らの力を発揮し、創造的に生きる人（中高年）で生涯自分が輝き続けるように生きる活力ある人と言います。なお創年は、講座でご指導頂いた聖徳大学名誉教授福留強氏の造語です。



歌留多で訪ねる我が町とりで



とりで街中お散歩マップ

活動目的は、日本一寝たきり老人の少ない町作りです。主な活動としては、①「ローンボウルズ」の普及推進②市民に役立つ街紹介マップ作り③市民のたまり場作りや環境美化活動が挙げられます。

目標球にどれだけ近づけられるかを競います。毎年秋季には藤代スポーツセンターで、藤井市長をお招きして競技大会を開催しております。回を重ねる度に愛好者が増え、昨年の第19回大会では、約100名の方々が集う大会に発展しました。マップ作りは、市内の名所旧跡を散策した成果を地図と「いろは歌留多」風に纏めた説明文を小冊子にし、「歌留多で訪ねるわが町とりで」と題して平成23年に第1号、25年に2号、28年に3号を発行（現在4号編集集中）、又昨年は取手駅東口周辺の散策マップ「とりで街中お散歩マップ」を作成、それぞれを図書館、公民館等に寄贈しました。たまりの場作りとしては歌声喫茶の開催、環境美化活動としては国交省主催の鬼怒川・小貝川クリン大作戦に参加しております。



競技中のローンボウルズ



ローンボウルズ競技会参加者の皆さん

「日本一寝たきり老人の少ない町」を目指す「16創年の会」は、幼児から70歳に至る華麗なフリーエイジの活動「舞鼓の会」今回は、無茶・無理はしないが積極的に明るく楽しく息の長い活動を通じて「日本一寝たきり老人の少ない町」を目指す活動と、和太鼓や民舞の楽しさや魅力を伝える青少年の健全育成と郷土の文化芸能の継承を目指す会の活動について紹介します。

「舞鼓の会」の活動

代表 倉持 武夫



海外公演でのスナップ

舞鼓の会（まいこのかい）は、取手市を拠点として活動する和太鼓サークルです。和太鼓や民舞が好きで仲間が集まり、活動をはじめて30年を過ぎました。結成以来、和太鼓

や民舞の楽しさや魅力を伝え、青少年の健全育成と郷土の文化芸能の継承と発展を目指して活動しています。現在、1〜2歳の幼児から70歳の大人まで約80名のメンバーで活動し、市内外の各種イベントへの出演協力、福祉施設への慰問公演など、地域への貢献活動として取り組んでおります。昨年は約40ヶ所で、演奏させていただきました。幼い子どもたちが一心に太鼓を打つ姿が可愛らしく、また、小学生から中高生へと成長と共に上達し格好良く成長して行く姿に、いつも多くの方々から拍手を一杯いただいています。勿論、大人たちも子ども達に負けまいと頑張っております。中高生から大学生のメンバーは学業や部活動との両立が難しいのですが、それでも太鼓は楽しいし、もっと上手になりたいと続けています。そんなメンバーをユニットチーム「舞鼓勇姿（ゆうすゐ）」と名付け、部活の合間に練習を組み、大人たちで会場の確保や送り迎え、太鼓の運搬等、支えています。最近の特記すべき活動としては、2013年にスペイン・バダホスにて初の海外公演を行ったことがあげられます。日本から唯一推薦されて、「国際

民俗芸能祭inバダホス」に出演してきました。日本の芸能を観るのが初めての人ばかりで、私たちの和太鼓の演奏・パフォーマンスはとても注目され、地元紙でも取り上げられました。参加した子どもたちにとっても素晴らしい体験となり、その後の太鼓に向かう意気込みと国際交流への意欲が増大したことは間違いありません。

2015年1月、これまでの舞鼓の会の活動内容を披露すべく、自主企画として、和太鼓と民舞のコンサート「和太鼓コンサート ふるさと鼓りや来りや」を開催、好評の声にこたえて、昨年2016年10月にも、第2回の「ふるこりや」コンサートを開催しました。今回は1000名を超える皆様にご来場いただき、温かい拍手をいっぱい頂戴しました。

私たちは、ふるさと鼓りや来りやの活動で、和太鼓を通してたくさんの方々とお話ししたいと思っています。演奏の機会を頂ければ、何処へでも参上いたしますので是非お気軽にお声掛けください。そして今後とも温かい目で見守って頂き、ご声援いただければと存じます。



和太鼓コンサート風景

編集後記

しんご通信49号は、平成29年度の最初に発行する新年号に相当するものですが従来の新年あいなりの記事ではなく若者に対するメッセージと前号に引き続き生き生きと活動する市民活動の紹介を行うことにしました。前号の市民活動紹介記事の好評を得て、今回も市民の皆様から華麗で創造に溢れる記事を掲載することが出来ました。次号以降是非取り上げて頂きたい記事がありましたら情報を寄せて頂ければ幸いです。

編集長 池田 徳光（☎090-4714-1888）